

「空のしるし、時のしるし」(要旨)
聖書箇所：マタイの福音書16章1-12節

【1】 イエスを試した人々

「私は“救い主”だ」。古今東西耳にする言葉です。自称「救い主」に騙されないように試すこと、それ自体は道理に適ったことです。パリサイ人たちやサドカイ人たちはそうした理由からイエスに「天からのしるし」を見せてほしいと要求しました。ところがイエスは彼らの要求に沿った答えをしません。なぜでしょう。イエスは彼らが救い主としての「しるし」を求めたのではなく、罠にかけるための口実を探していることを見抜いていたからでしょう(参照マタイ22:15-18)。「しるし」について述べられた後、彼らを残して去って行かれました。

【2】 空のしるし、時のしるし

当時の人々は空模様を見分けて予定を立てていました。当然パリサイ人たちもそうしていました。イエスは空模様同様に「時のしるしを見分けることはできないのですか」(同16:3)と言われたのです。人は、一日として同じ空模様がないことを自明の理としています。過去の事例の蓄積から現在の空模様を見分けます。神の「時のしるし」についてはどうでしょうか。神がすでに約束されたことを思い起こし、今、実現されたことに注目しているのでしょうか。

バプテスマのヨハネは新しい時代の到来、すなわちキリストの「時」を宣言しました(同3:2)。その後イエスは宣教を開始されました。

「この時からイエスは宣教を開始し、『改めなさい。天の御国が近づいたから』」(同4:17)。イエスの宣教はしるしと不思議が伴い、イエスの評判は「ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤおよびヨルダンの川向こう」(同4:25)にまで伝わりました。さらに異邦人も「イスラエルの神をあがめた」(同15:31)のです。彼らはイエスの内に「天からのしるし」を認め、イエスを受け入れました。実はパリサイ人たちの心のかたくなさが、彼らに「天からのしるし」を見えなくさせてい

たのです。

▷私たちは今この時も生きて働いておられる神に信頼しているのでしょうか。

【3】 わずかなパン種であっても

パリサイ人たちとのやり取りの後、弟子たちは忘れ物をしてしまいました。気づいたのは「向こう岸に渡った」後でした。今さらパンを取りに戻るわけにもいかない。けれどもパンがなければ空腹になる。どうしようかと思案していた時の「パリサイ人たちやサドカイ人たちのパン種に、くれぐれも用心しなさい。」(マタイ16:6)というイエスのことば。弟子たちは「私たちがパンを持って来なかったからだ」と議論を始めるのでした。イエスはパリサイ人たちとのやりとりを振り返り、ご自分の弟子たちに「用心しなさい」と言われたのでしよう。一方弟子たちはパンのことでイエスに責められたのだと思い込んだのです。彼らはイエスが五つのパンから五千人、七つのパンから四千人の空腹を満たした「天からのしるし」をすっかり忘れていました。

イエスの「用心しなさい」とは、「パリサイ人たちとサドカイ人たちの教え」のことでした。この「教え」は特定の教義のことではなく、彼らのイエスに敵対する態度を指していたのでしよう。彼らはイエスを試していながら自分たちの心の中にある罪の問題と向き合うことをしませんでした。

▷私たちの心はどうでしょうか。イエスについて論じていながら、自分の中に潜む罪に対して無頓着であることはないのでしょうか。聖書は、イエスが神の子キリストであることを私たちに伝えます。私たちが信じていのちを得るために必要なすべてが記されています(参照ヨハネ20:31)。

イエスを「試す」ことから、イエスのことばに聞く者とされますように。

